

チベット語文語文法

レッスン1

1. チベット語とは

ここで学ぶチベット語文語は、もともと古代チベット王国で仏典をインドの原典からチベット語に翻訳するために文法が制定された言語で、その後も仏教文献を記述するために（ちょうどラテン語がカトリック教会の中で学問言語として用いられていたように）、その時代からほとんど変わらない文法と語彙で用いられている。チベット語には口語もあるが、これは単語などで共通の部分もあり、文字も同じではあるが、語彙全体、あるいは文法には大分隔たりがあり、文語が読めても口語は話せず読めない、あるいは口語はできて文語は読めないということにもなる。

また、その中間に歴史などの非仏教的な文献のチベット語は半ば口語、半ば文語で、これまた仏教文献とは語彙と言い回しが異なっている。仏教文献が読めても歴史文献は読めず、歴史文献が読めても仏教文献は読めない。

この授業では仏教文献を読むために特化したチベット語文法を学習する。仏教チベット語文語に関して言えば、文章はたいてい文法規則に則って書かれており、論理的な分析によって理解することができる。また、語彙も概ね仏教用語を知っていれば理解できる。また、日本語とも語順や文法構造などが類似しており、英語圏の人が学ぶよりも日本人にとっては習得がしやすい。

ただし、外国語であるので、きちんと覚えるべきことは覚え、繰り返し練習すべきことは練習し、何度でも復習をして頭に徹底的に叩き込まないと、チベット語仏教文献をそれだけで理解できるようにはならない。

本書は、例文や問題文に、チベット仏教の基本的な概念を散りばめた仏教文献が用いられており、言葉の学習と同時に仏教的な概念の学習もできるようになっている。内容が単純な例題ではないために、読んでいても楽しいものとなっている。この本の特徴をよく理解して、一日も早く実際のチベット語文献を読めるようになって欲しい。

2. 文字、音節、単語

チベット語の基本子音字は30字母ある。字母というのは、基本となる文字という意味で、それらの文字を組み合わせると1音節を作るが、上下に子音字を積み重ねるときには文字の形が若干変化する。そのため、30字母だけではなく、上下に積み重ねるときの変化形も覚える必要がある。

日本語では1音節は、子音一つ+母音一つで構成されている。それに対してチベット語の1音節は、基本的には一つの母音の前後に子音がいくつか付け加わって出来ている。一番多くの文字からなる音節の例は、

བུམ་བུམ་

である。これは、

子音+子音(上)+子音(中)+子音(下)+母音+子音+子音

という構成である。子音(上)、子音(中)、子音(下)というのが、子音字が上下に積み重なっている部分である。母音はuで、それは母音記号 ུ で表されている。

この中で基字と呼ばれる、中心となる子音がある。辞書は基字の順に配列されているので、どの子音が基字であるかを判別できないと辞書が引けない。この例では、子音(中)が基字である。

音節は´という記号で区切られている。これはちょうど英語のスペースのような役割を果たしている。この記号は「ツェック」と呼ばれる。

音節が一つ以上集まって一つの単語になる。一音節が一単語であることも多く、また一単語が省略されて一音節に縮まることも多い。単語がどのように出来ているかについては、後で説明する。

3. 基本30字母

30字母の表は、日本語の50音図に似ている。ただし、日本語の50音図は各行に母音の「あ」「い」「う」「え」「お」の変化を加えてできているが、チベット語の30字母の表は、子音字のみの表である。

	無声無気音	無声有気音	有声無気音	鼻音
ka行	ཀ (ka)	ཁ (kha)	ག (ga)	ང (nga)
ca行	ཅ (ca)	ཆ (cha)	ཇ (ja)	ཉ (nya)
ta行	ཏ (ta)	ཐ (tha)	ཌ (da)	ཎ (na)
pa行	པ (pa)	ཕ (pha)	བ (ba)	མ (ma)
tsha行	ཅ (tsha)	ཆ (tsha)	ཇ (dza)	
	མ (wa)	ཙ (zha)	ཙ (za)	འ ('a)
	ཡ (ya)	ར (ra)	ལ (la)	
	ཤ (sha)	ས (sa)	ཧ (ha)	ཨ (A)

子音字一文字のみの場合は、母音はaである。他の母音、i、u、e、oは、子音字に母音記号を付けて表す。括弧の中に書いたのは、チベット文字のローマ字転写である。ローマ字転写の方式にはいくつかあるが、本文法書では、拡張ワイリー方式という現在もっとも普及している方式を用いる。文字の発音は、この表に関する限り、だいたいローマ字の発音通りである。基本子音字といいながら、ཨ (A) という母音が含まれているが、これは母音記号としての母音ではなく、母音記号が付けられる基本字母としてのaである。たとえば、iという母音は、ཨིと表される。母音記号としてのiは^ˆであるが、これでは基字が存在しないので、iという母音を表すための基字として、基本字母の母音のaが用いられる。

母音記号は、基字を ཨ にして表すと、

ཨི (i) ཨུ (u) ཨེ (e) ཨོ (o)

の四種類である。たとえば、kという子音字に母音を付けて音節にすると、

ཀ (ka) ཀི (ki) ཀུ (ku) ཀེ (ke) ཀོ (ko)

となる。他の30字母から同様の音節が作られる。

練習問題1

三十字母の表を数回書いて、基本の文字を覚えよ。

練習問題2

次のチベット語を発音せよ。またローマ字で転写せよ。

1. འུ 2. ལུ 3. དེ 4. རྟི 5. ཅི 6. ཡེ 7. ཤེན་ 8. དོམ་ 9. རོཙ་ 10. ཚེབ་
11. ཚོ 12. རོཏི་ 13. མི་ 14. ཉེབ་ 15. རོབོ་ 16. སོསོ་ 17. ལུབོ་ 18. དེལོན་ 19. རེལེ་ 20. ཉིའུ་
21. རི་ 22. མེ་ 23. དོན་ 24. རོ་ 25. ཏུ་ 26. ཏུ་ 27. སུ་ 28. ལྷི་ 29. རོ་ 30. ཏི་
31. རོ་ 32. རེ་ 33. ང་ 34. སོ་ 35. ཡི་ 36. ལབ་ 37. ཤིབ་ 38. ཟབ་ 39. ཚ་ 40. ཏ་
41. ས་ 42. ཉིམ་ 43. ཚོག་ 44. རོམོ་ 45. ཡེལོ་ 46. རེམོ་ 47. ལལ་ 48. ལུབ་ 49. རིབ་ 50. ཡིག་
51. ས་ 52. མ་ 53. ཉ་ 54. ར་

意味

ལ་ 口 ཚ་ 部分 ར་ お茶 ཉ་ 魚 ཏ་ 今 ས་ 父 མི་ 人・否定辞 མ་ 母
 ཚོ 時 འུ 息子 ཡེ 初め ཉིམ་ 太陽 ཤ་ 肉 ས་ 土地 རི་ 山 རོ་ ヨーグルト
 རིམོ་ 模様 ཚོག་ 儀軌 ཡིག་ 文字 ང་ 私 རོ་ 味 རེལེ་ それぞれ སོསོ་ 別々に
 ཉེབ་ 近い རིབ་ 寂滅 སོ་ 齒 རོམོ་ 帰命 ཡེལོ་ 怠惰 དོམ་ ミルク རོཏི་ 経帙
 ལུབ་ お尋ねする ལལ་ 或る མེ་ 火 ལབ་ 柱 ཟབ་ 食べる ལུབོ་ 川 དེལོན་ それのみ
 ཉིའུ་ 二十 རོབོ་ 本体 ཏུ་ ཏུ་ སུ་ において ལྷི་ ~の ཡིག་ 文字 ལུ་ 水
 དོན་ それならば སོ་ 齒 ཤིབ་ 死んだ